

富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 運営会議の概要

(1) 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項の調査研究

(2) 審議事項

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項

(3) 委員名簿

荒谷 進 (県公民館連合会事務局長)

石澤 宣子 (高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所所長)

奥野 達夫 (南砺市福光美術館館長、砺波地区センター運営会議会長)

尾山 敦子 (県民カレッジ自遊塾県民教授)

金井 進 (県生涯学習団体協議会会長)

佐藤 登 (県経営者協会専務理事)

立浪 勝 (富山大学芸術文化部教授、高岡地区センター運営会議会長)

西出 紀子 (県婦人会副会長)

富永 則子 (県PTA連合会副会長)

松井 和子 (県民カレッジ友の会「雷鳥会」会員)

武藤 憲夫 (富山短期大学幼児教育学科教授、新川地区センター運営会議会長)

村井 和 (県市町村教育長会副会長 (高岡市教育長))

山田壽美子 (公募委員)

山西 潤一 (富山大学理事・副学長)

2 これまで開催した会議の概要

◎平成20年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議

① 開催日時 平成21年2月27日(金) 14:00~16:00

② 開催場所 富山県教育文化会館4階 403号室

③ 議 題

【報告事項】

(1) 生涯学習施策の動向について

(2) 平成20年度事業について

【協議事項】

(1) 平成21年度事業計画について

④ 議事録の概要…こちらをどうぞ

⑤ 会議資料

・平成20年度事業について

・平成21年度事業計画について

平成20年度富山県生涯学習カレッジ運営会議 議事概要

- 1 日 時 平成21年 2月27日(金)
- 2 場 所 富山県教育文化会館 4階 403号
- 3 議事等

挨拶(富山県生涯学習カレッジ学長)

昨年20周年を迎え記念事業を新川、高岡、砺波地区センターは8月10日、本部は8月31日に行った。また、県民カレッジ20周年記念誌「新たなステージへ」を作成した。県民カレッジは、人材育成、情報提供・学習相談、市町村・各機関との連携という3つのキーワードに沿った事業を展開している。人材育成については、平成19年度から「はつらつ学びのリーダー育成事業」を実施している。情報提供・学習相談については、とやま学遊ネットを実施しているが、よりよい形で充実していきたい。市町村・関係機関との連携については、地区センターが中心となり進めていきたい。本日は、20年度事業、21年度事業計画について、皆様からの忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

挨拶の後、事務局から出席委員及び事務局職員の紹介が行われ、その後、金井会長が会議の司会を進行し、事務局から報告事項及び協議事項について説明がなされ、概ね次のような発言が行われた。

(会長)

事務局からの説明を踏まえて、意見や提言をいただきたい。

(委員)

映像ソフトが多くの方に活用され、大変結構である。映像素材の選定にも関わっているが、是非多くの人に活用してもらえようものと考え選定している。多くの人に活用されるためにも社会教育団体を活用したらどうか。また、受講者が多く集まるのは人気がある証拠。応募多数の際、抽選であるが、収容人数の問題もあるが、出来るだけ多くの方が参加できるよい方法がないか。なお、講師謝金が大変なので共催という形で他の団体と連携してはどうか。

(委員)

映像センターが所蔵する映像素材は宝の山である。東京の放送局などに活用してもらうことで、逆に富山が注目されるなど、その価値が環流されるのではないか。

(委員)

県民カレッジや市町村の行っている講座の受講料は他に比べて安いので、いつでも、どこでも、だれでも生涯学習の観点から存在価値が高い。高岡地区の運営会議では、高岡地区センターに射水地区から通にくいとか、現在7割の出席となっている単位制度の修了基準は厳しいのではないかと、街の活性化のアイデアとして単位数と商店街のポイントサービスを結びつけることができないかといった意見などがあつた。

(事務局)

講師については、夏季講座含めて20年前には年間30人近くの中央講師を呼んでいたが、現在では3人である。開学当初からの考えとして、これから活躍されそうな方を選定の基準としている。予算も

厳しくなることから、講師を呼ぶときに連携して行うことを検討していく必要もある。定員を超え、やむを得ず抽選する件については、会場の収容人数や備品などの制約が大きいことをご理解いただきたい。新川地区センターでは、自然体験の講座を増やして対応した事例がある。映像センターの宝物については、これまでも映像素材の活用に努めているが、ご提言も含めて検討して活用してまいりたい。単位数の修了基準については、これまでの経緯もあることからご理解いただきたい。また、単位数を商店街のポイントサービスと結びつけ、活性化とのご意見については、ユニークであるが難しいと思われる。

(委員)

昨年、女性会議に係わった。会場に入りきれなかった参加者の方に別の会場で放映した。例えば、講座を他の地域で同時に放映することもできるのでないか。いろいろ工夫し、検討してはどうか。また、中央講師と地域で活躍する人材の相乗効果を計ってもらえないか。

(委員)

講座案内を見ていると、わくわくするような楽しい講座が少ないように思う。もう少し刺激的な要素、例えば体験・体感できるものを取り入れてはどうか。

(委員)

雷鳥会の会員が増えたころは、社会の混乱が落ち着き、勉強したいという意欲に溢れていた。会員数が減ってはいるが、会報を通じて県民カレッジの全体的な動きを知りたいとの思いを持っている。また、カレッジ叢書は、読書会に活用されたこともあるなど、多くの人に親しまれているので病院の談話室に置くことなどの活用を考えたらどうか。その時は、A4版で大きい文字にしてもらえると高齢者は読みやすくなる。県民カレッジは、学ぶことを求める人々のためのものであって欲しいと常々思っている。

(委員)

ピアノの講師をしているが、年配の方と子どもたちが共演した舞台発表がとても良かったことを経験している。核家族化が進んでいることから、世代間の交流を進めるような活動ができるのもよいのではないか。

(委員)

社会人と高校生と一緒に学ぶことは重要である。砺波地区センターの運営会議でも世代間の交流をもっとすることが重要との意見があった。生涯学習校には、地区の人が守ってきた学校という考えがあるように思う。

(委員)

県東部への出前講座に行ってきた。生き方の伝承がなされていないという声を聞いている。世代間の交流が大切なのではないか。

(会長)

多くのご質問及びご意見がありました。事務局から説明してください。

(事務局)

県民カレッジの事業を進めるにあたって、県民の皆さんにニーズ調査を来年度、幅広く実施したいと考えている。カレッジ叢書の活用については、ご意見を参考に今後とも活用を図ってまいりたい。講座に体験・体感の要素については、現地研修なども取り入れるようにしている。世代間で交流する機会については、親子映像フェスティバルや親子自然探検などを行っている。

この機会に2点についてご意見をお聞きしたい。県民カレッジあり方検討会で受講者には学習サービ

スの受益者として適切な負担をとることから、夏季講座の受講料600円を平成19年に800円、平成20年に1000円とする予定であったが、平成20年は見合わせたことから、平成21年に1000円にすることと、もう1点は、現在、本部運営会議、新川・高岡・砺波地区センターの運営会議など全部で4つあるが、これを一本化できないかとのことについてご意見を伺いたい。

(委員)

夏季講座については、中央講師を呼ぶことから1000円はやむを得ないと思うが、いつでも、どこでも、だれでも考え方から、他の講座については現料金を維持して欲しい。地区センターの運営会議については、地域の実情を踏まえたよい意見がだされており意義があると考えている。

(委員)

地区センターの運営会議は、地域の事情を踏まえており意義があると考えている。

(事務局)

ただ今のご意見なども参考に進めていきたい。

以上のような討議の後、閉会となった。